

第34回
北九州大腿骨近位部骨折
地域連携パス協議会

2022年7月28日

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会事務局
産業医科大学 リハビリテーション部
村上 武史

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 5回の立ち上がりテスト(改訂版)の評価特性
及び退院時歩行能力の予測精度に対する調査
3. その他

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 5回の立ち上がりテスト(改訂版)の評価特性
及び退院時歩行能力の予測精度に対する調査
3. その他

大腿骨近位部骨折地域連携パス 集計結果

全受理データ

(2011年8月～2022年4月30日)

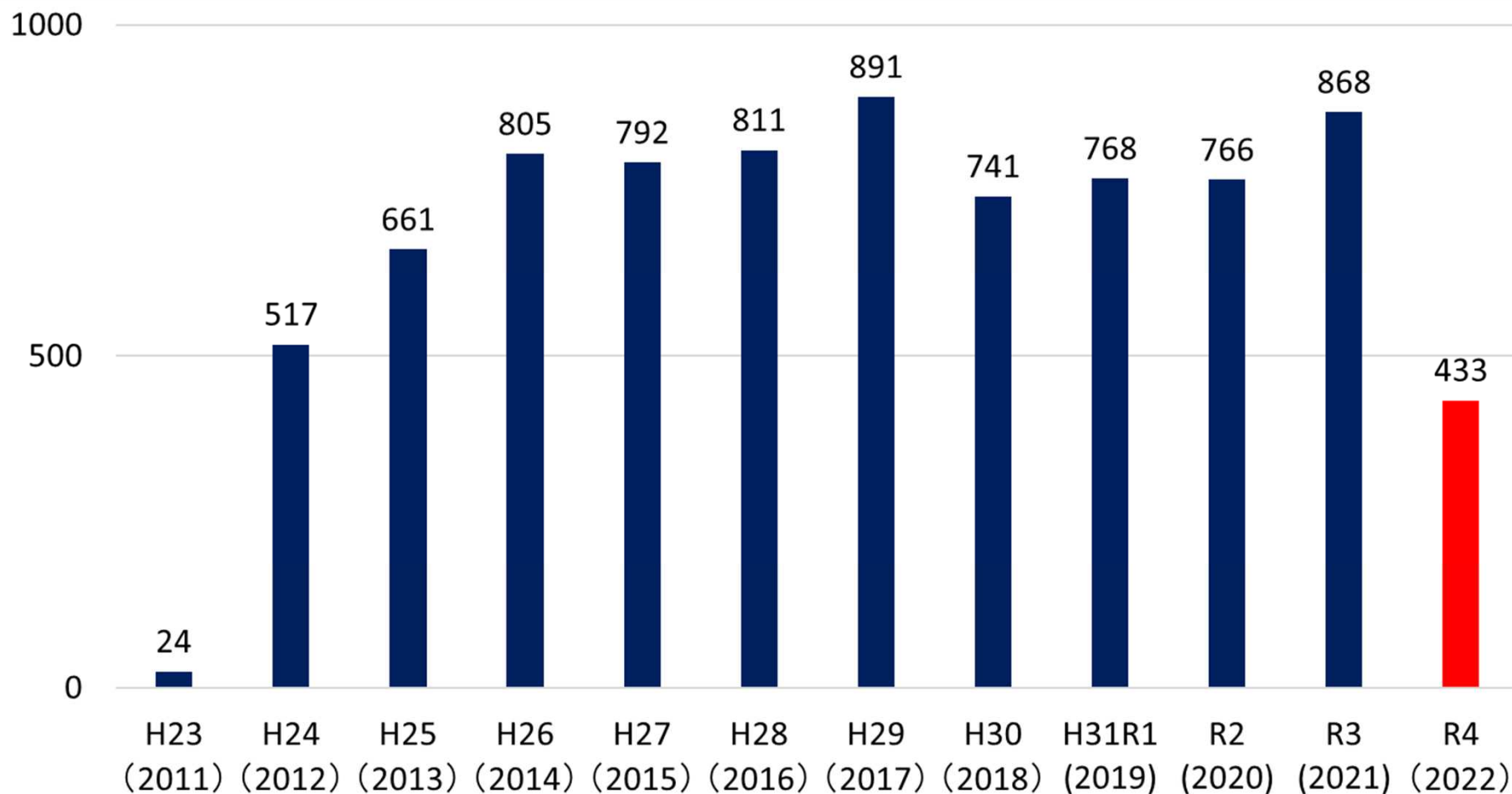
地域連携パスの利用状況

2021.12.28～2022.4.30までの約4カ月間

- 急性期医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**259件**
 - 合計8077件(受理5518件＋未送信2559件)
- 回復期等連携医療機関のパス利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**376件**
 - 合計8077件(受理6577件＋未送信1500件)
- 急性期医療機関と回復期等連携医療機関の両施設の利用状況
 - 事務局へ送信された件数・・・**202件**
 - 合計**4019件**

年別の地域連携パスの利用状況

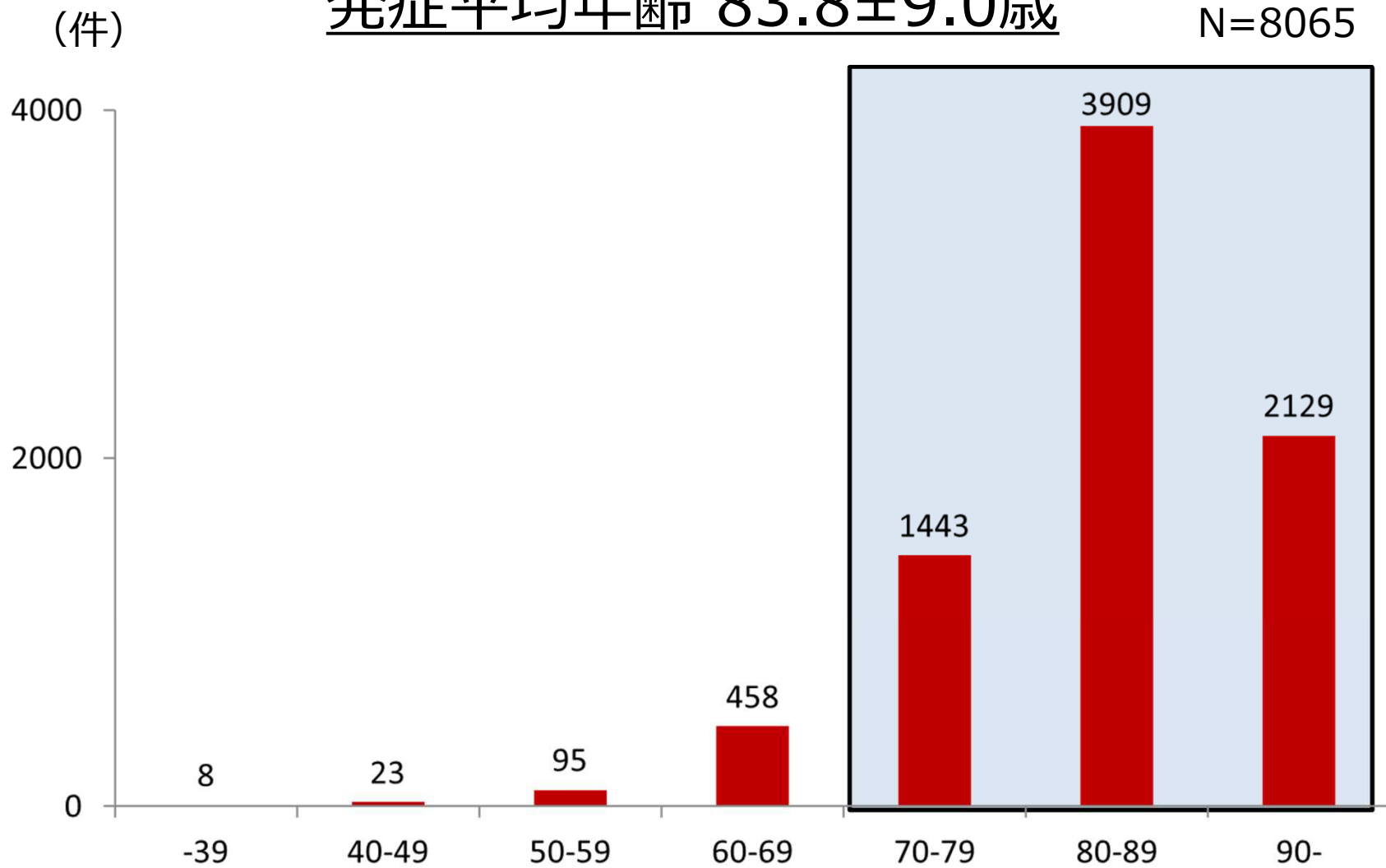
前回からの増加件数 : 433 件



年代別利用状況

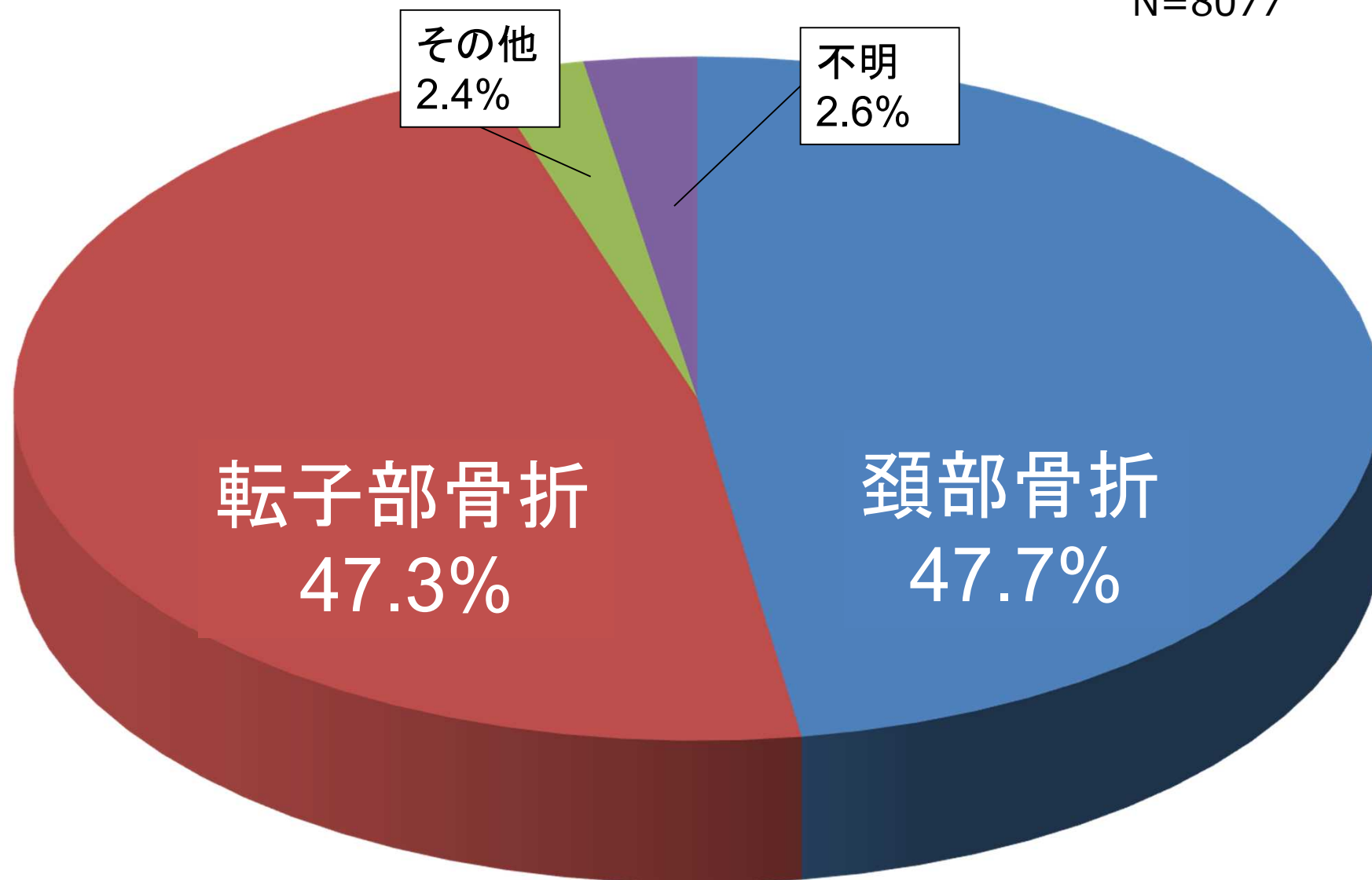
発症平均年齢 83.8±9.0歳

N=8065

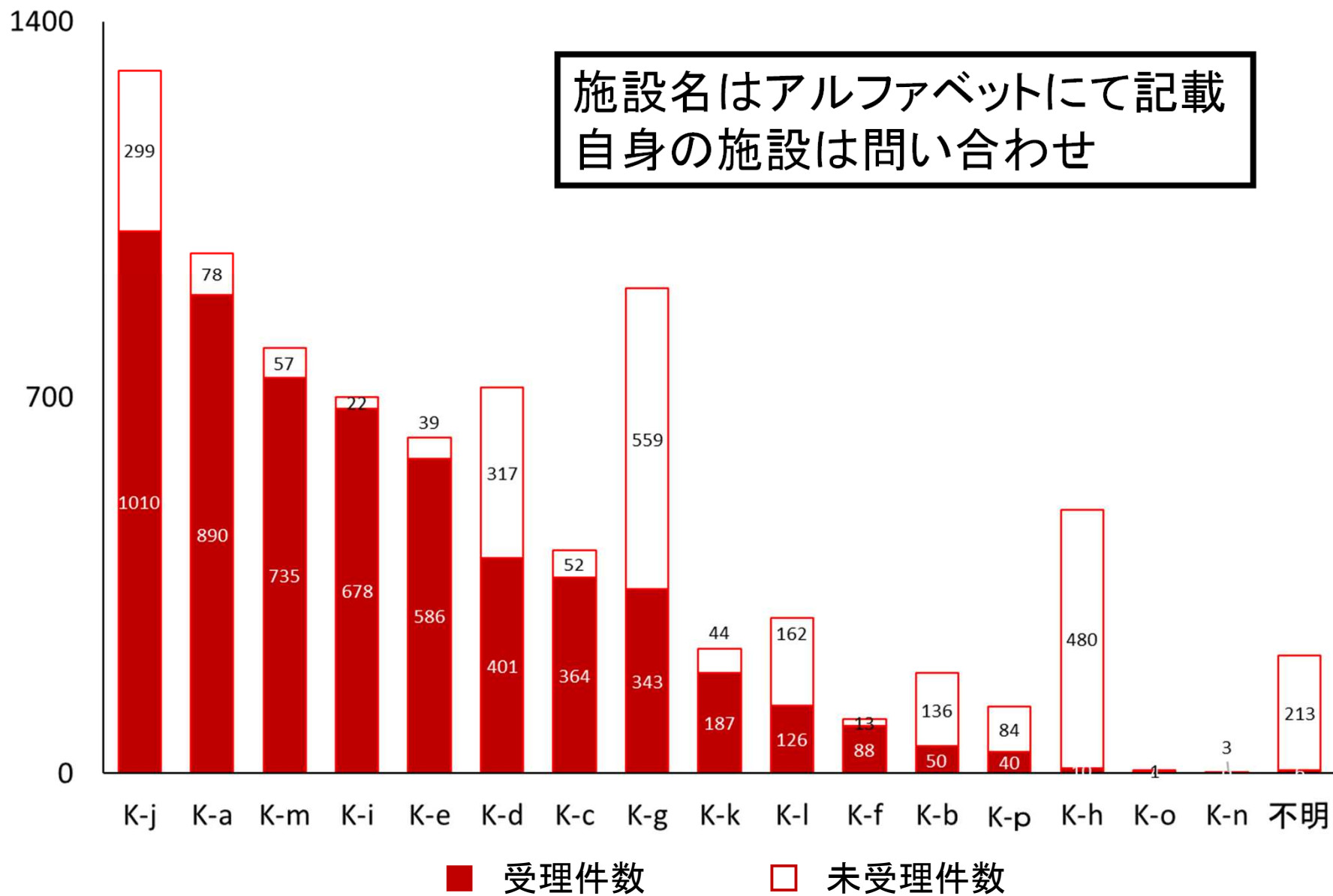


骨折型別発症割合

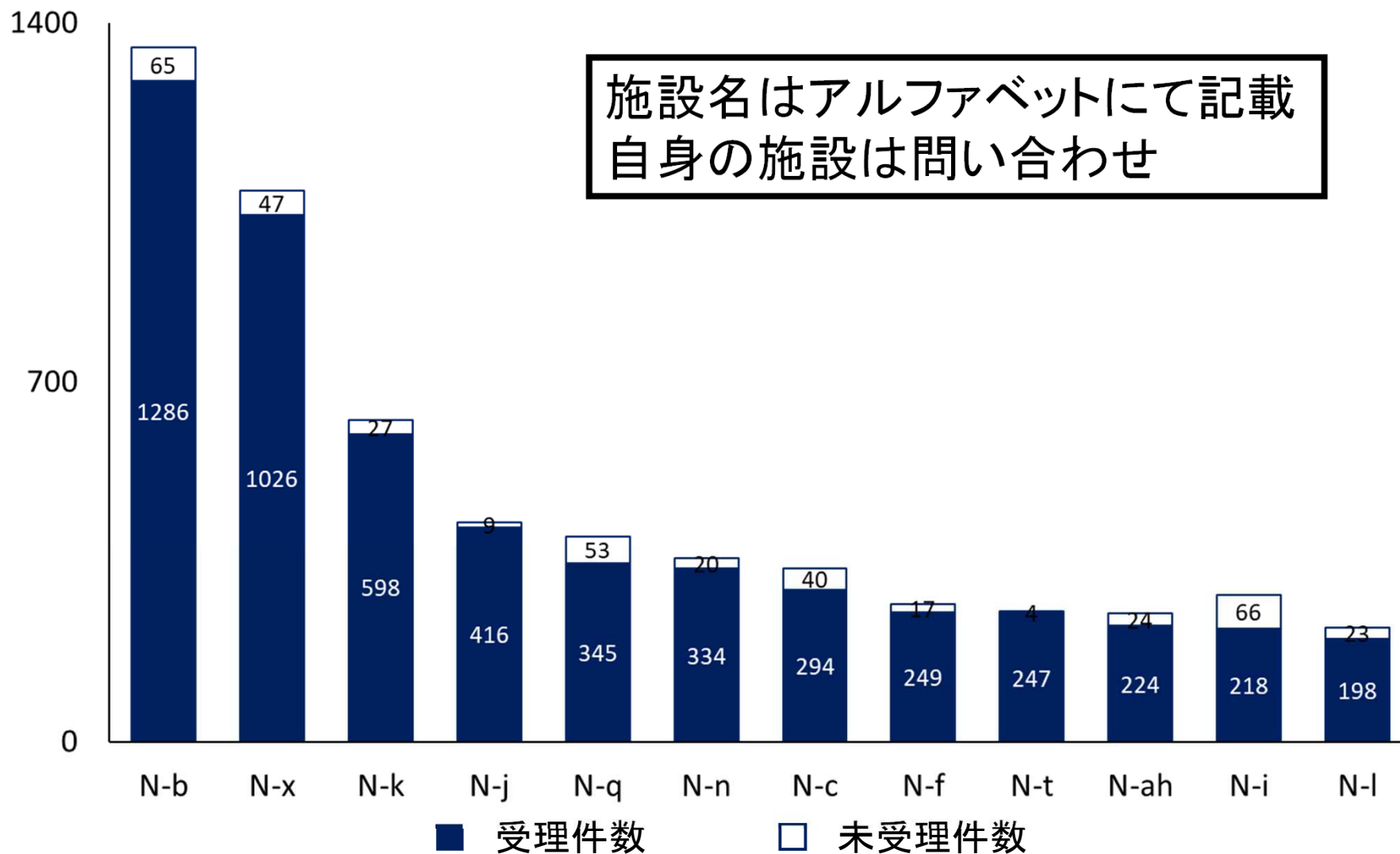
N=8077



急性期医療機関



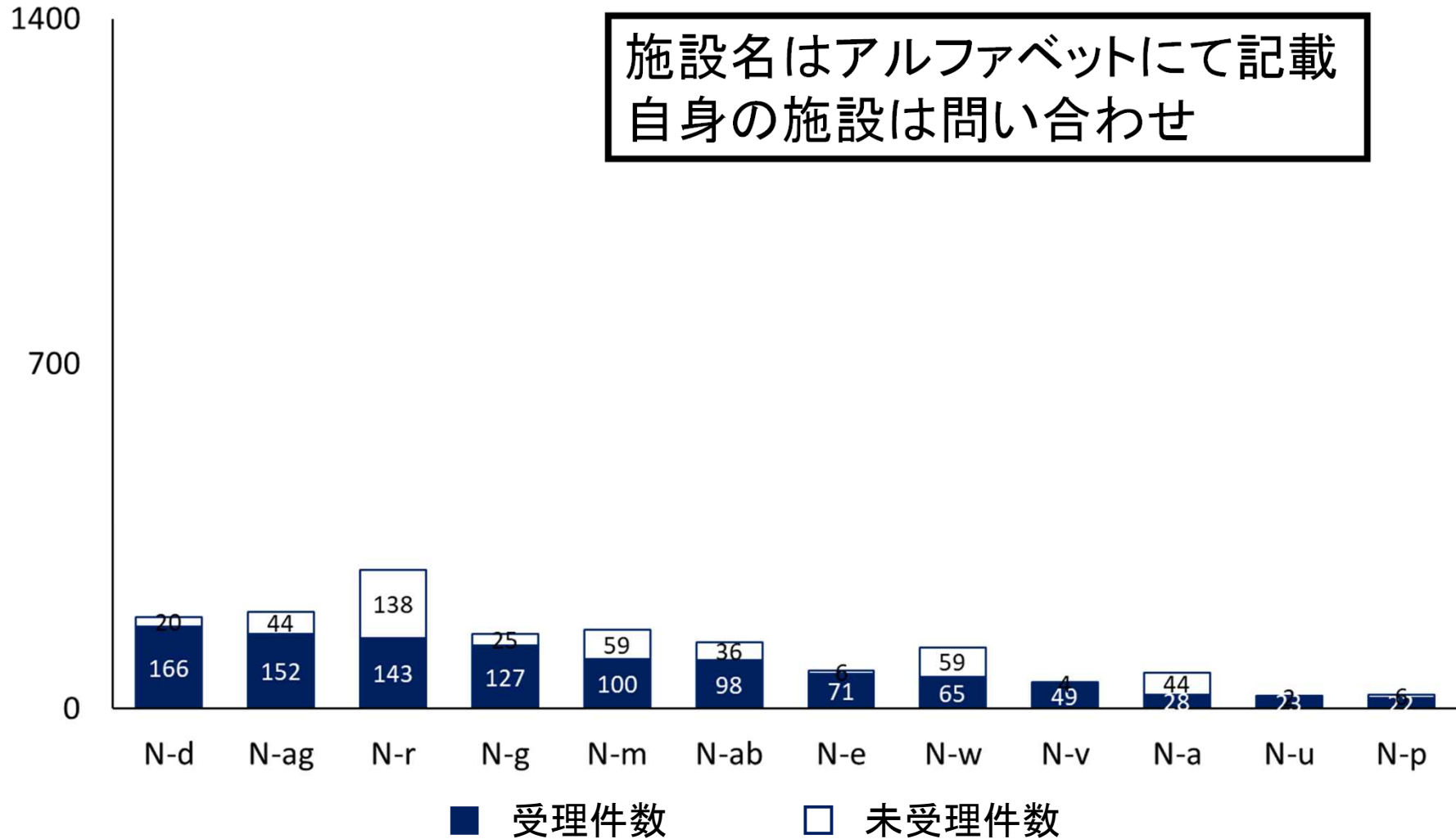
回復期等連携医療機関①



* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

回復期等連携医療機関②



* 現在入院中の可能性があるため、受案件数が低い場合あり

* 20件以上受理した施設

本日の議題

1. 地域連携パス北九州標準モデル利用状況
2. 5回の立ち上がりテスト(改訂版)の評価特性
及び退院時歩行能力の予測精度に対する調査
3. その他

研究背景

大腿骨近位部骨折は受傷頻度の高い疾患で、
受傷後は歩行・ADL能力の低下
→歩行の再獲得の可否は生存率にも影響

5回の立ち上がりテスト(Five-times-sit-to stand test: 5TTS)
→筋力、歩行速度、動的バランス、心肺持久力と関連

Xianyang Sherman Yee, et al: Eur Aging Phys Act

アメリカ理学療法士会のガイドラインにおいて

大腿骨近位部骨折術後患者に対して5TTSの評価を推奨

McDonough CM, et al: J Orthop Sports Phys Ther 2021

急性期では上肢支持がなければ評価困難
→上肢支持を用いた評価の報告はほとんどない

調査の目的

大腿骨近位部骨折術後患者における上肢を用いた
5回の立ち上がりテスト(5TTS)改訂版の検者間信頼性
、およびその妥当性を明らかにすること

5TTS改訂版の結果が回復期病院退院時の歩行機能
および患者の転帰の予測因子となるかを検討すること

調査の意義

○信頼性および妥当性

大腿骨近位部骨折術後患者の身体機能や移動能力の把握が可能

最小変化量を算出することで、臨床における効果判定を可能

5TTS改訂版と各評価との関係性

5TTS改訂版に与える因子を把握

○回復期病院退院時の歩行機能および患者の転帰

5TTS改訂版が予測因子となるか明確

急性期病院入院時より5TTS改訂版を評価する有用性

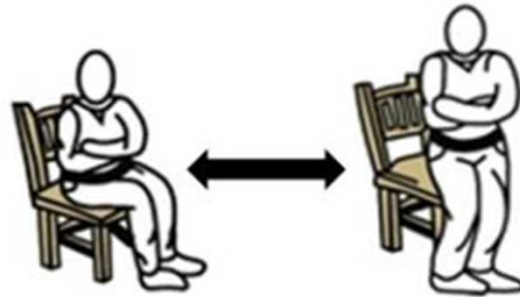
方法

- 対象 大腿骨近位部骨折を受傷し、当院手術が施行された
40歳以上の者、受傷前に屋内歩行が可能であった者
- 研究期間 令和4年6月27日から令和7年6月26日の3年間(予定)
- 評価項目 (当院退院時)
5TTS改訂版、筋力(上下肢)、疼痛、日常生活動作、
認知機能検査、歩行機能
- (回復期病院退院時)
パスデータより歩行機能および転帰

調査の流れ



5回の立ち上がり試験改訂版



5回の立ち上がり試験
(改訂版は上肢支持を利用)

- 測定環境 椅子は座面の高さが43～45cmに調整
手すりや平行棒等の物的介助の使用は許可
- 測定 ストップウォッチを用い、測定のタイミングは『セラピストが声掛けを始めた時点から、5回目の動作終了時に椅子に身体が触れた時点』。
各測定者が2回実施し、2回の平均値を代表値
- 声かけ 「できるだけ早く5回立ち座りを繰り返してください」
「手すりは用いて構いません」